

クリスマス会を開催します



当院では、12月の第2水曜日に、入院患者さんを対象にした『クリスマス会』を行っています。各病棟や各部署が、日頃練習した出し物を発表する場にもなっており、好評をいただいています。

昨年のクリスマス会、医局・事務合同チームの発表

～ 最善の行動と信頼 ～

医療法人 同和会 千葉病院

【病院概要】

- 診療科
精神科・神経科・神経内科（要予約）・歯科（要予約）
- 院長
鈴木洋文
- 外来診療時間
平日9:00～12:30（月曜日のみ9:30～12:30）
土曜日9:00～12:30（午後は予約制）
- 休診日
木曜日・日曜日・祝祭日・6月1日（創立記念日）
- 所在地
〒274-0822 千葉県船橋市飯山満町2-508
Tel: 047-466-2176 Fax: 047-466-7503
ホームページ: //www.chiba-hp.on.arena.ne.jp



千葉病院 患者様の権利

- ①個人として、人格およびプライバシーが尊重されます。
- ②安全な環境で、可能な限りの良質な医療が提供されます。
- ③職員のいかなる行為に対しても説明を求め苦情を申し立てることができます。
- ④精神保健福祉法に則った医療および処遇が保障されます。
- ⑤職員から思想・信条・宗教、および個人的関係は強制されません。
- ⑥個人情報保護されます。

心の健康について一緒に考えましょう。私たちはこれまでの経験を生かして、皆様の身近なところで気軽に相談できる心のクリニックを目指しています。

こころの健康クリニック津田沼

- 所長：福井 進
 - 診療科目：精神科・心療内科
 - 診療時間：午前9:30～12:00（受付11:30まで）；午後14:00～17:30（受付17:00まで）
 - 休診日：木曜・日曜・祝祭日・年末年始
 - 住所：船橋市前原西2-13-13 大塚ビル4階（JR津田沼駅北口より徒歩2分）
 - 電話：047-455-7300 ホームページ：<http://www17.ocn.ne.jp/~mhct>
- 当クリニックではご家族の方の相談に医師・スタッフが対応します。1人で悩まずに、お気軽にご相談ください。

神経内科は脳や脊髄、末梢神経、筋肉の病気を扱います。頭痛、目まい、脳梗塞などを始め多彩な神経疾患の症状に悩む多くの方にとって、とても身近な専門領域になります。

神経内科津田沼

- 所長：服部 孝道
- 診療医師：服部 孝道・栗原 照幸・水谷 智彦・湯浅 龍彦・神田 利政
- 診療科目：神経内科、脳ドック
- 診療時間：午前9:00～12:00 午後14:00～17:00
- 休診日：木曜・日曜・祝祭日・年末年始 ホームページ：<http://shinkeinaika-tor.jp/index.html>
- 住所：船橋市前原西2-14-15 榊原ビル7階（JR津田沼駅北口より徒歩1分）
- 電話：047-470-0500 F A X : 047-470-0511



千葉病院広報紙 2011. 冬号（第35号） 発行者 医療法人同和会 千葉病院

災害支援派遣報告

3月11日に発生した東日本大震災による、被災地への医療支援活動として、当院では計5回にわたって災害支援チームを被災地に派遣してきました。千葉病院が派遣した延べ人数は、医師6名、看護師5名、ソーシャルワーカー（PSW）4名、臨床心理士（CP）1名、事務職員4名です。以下がその足跡です。

- 第一陣：4月5日～11日 小松副院長以下4名 宮城県気仙沼市「光が丘保養園」（初日は、鈴木院長以下2名が応援に加わりました）
- 第二陣：5月9日～15日 横山医師以下4名 上に同じ
- 第三陣：7月12日～15日 浅香医師以下4名 岩手県陸前高田市「こころのケアチーム」プロジェクト応援
- 第四陣：9月14日～16日 鎌田医師以下4名 上に同じ
- 第五陣：10月19日～21日 谷淵医師以下3名 上に同じ

本号では、最終派遣となりました第五陣の活動と、あわせて病院院内報11月号に掲載された、鈴木洋文院長による総括の文章を掲載し、報告させていただきます。



陸地に取り残された船。震災から半年以上たっても、このような光景が残る場所がある。

東日本大震災に伴う災害医療支援は、4月上旬の「光が丘保養園」医療支援チーム派遣から始まり、10月中旬の陸前高田心のケアチーム派遣（第五次災害支援派遣）をもって、取り敢えず終了しました。

この間の支援参加スタッフをはじめとした多くの職員のご協力に感謝いたします。もちろん現地はまだ復興の端緒をつかんだばかりであり、被災者、及び被災支援者（自ら被災し支援する立場の方々）の心の問題が解決したわけではありません。もともと東北地方は自殺が多いことで知られていましたが、今後さらにその問題が浮かび上がってくることは必至と思われる。当然のことながら、現地の精神保健医療・福祉のシステムは今後も多くの試練を受け続けると思われる。ともあれ、支援する活動も一旦は区切りをつける必要があります。そこで私たちの日常を取り戻し、私たちの組織の日常的な課題に取り組む必要があります。現地の方々のご苦勞を心中察しつつ、私たちの目の前の課題に取り組んでいただきたいと思ひます。

今後、再び現地から支援のニーズが出てくれば、改めて支援を考える機会も来るかもしれません。その際はまた多くの職員に協力を頂きたいと思ひます。まずは、ご苦勞様でした。 病院長 鈴木洋文



震災から半年以上経過し、復興がだいぶ進んでいるとはいえ、被災地にはいまだに震災の爪跡が根強く残っていました。実際に行って見て多少なりとも関わるとい事は、大変貴重な経験でした。ちなみに業務外もかなり充実でした。

派遣の前後に励ましやねぎらいなど声をかけていただいたり（けっこううれしかったです）、不在中に業務のフォローをしていたり、いろいろな形でご支援いただいたこと、このような機会を与えていただいたこと、お世話になった樋口さんと中島主任、みなさまに深く感謝申し上げます。被災地の復興が一刻も早く進むことを願うばかりです。 医師：谷淵 由布子（写真は第五陣スタッフ。左から谷淵由布子医師、樋口真佐子PSW、中島弘貴看護師）

高根台メンタルクリニック

- 安心、そして安らぎのある暮らしを・・・
 - 所長：赤川 和弘
 - 診療科目：心療内科・精神科・神経科・内科・シルバーケア
 - 診療時間：午前9:00～12:00（受付11:30まで）；午後14:00～17:00（受付16:30まで）
※初診の方はご予約となります。
 - 休診日：火曜・日曜・祝祭日・年末年始
 - 住所：船橋市高根台1-2-2 プラザ街2F（新京成高根公園駅より徒歩2分）
 - 電話：047-468-6806 F A X : 047-468-6809
- ※在宅医療にも取り組んでいます。お気軽にご相談ください。



編集後記

今年度最後の院外報になりました。3月に東日本大震災が発生し、当院も微力ながら復興支援活動に参加いたしました。今号ではほかにも、社会復帰科の紹介や満足度調査の報告など掲載しております。来年度もよろしくお祈りいたします。

- 発行：医療法人同和会 千葉病院
- 発行日：平成23年12月1日
- 住所：千葉県船橋市飯山満町2-508
- TEL 047-466-2176 Fax 047-466-7503
- URL: //www.chiba-hp.on.arena.ne.jp/

ここは千葉病院の活動を紹介するコーナーです

社会復帰科です

社会復帰科長 柴田憲良

同和会千葉病院の「社会復帰科」を紹介します。
社会復帰科とは文字通り、患者様の社会復帰に向けた様々な援助活動に取り組む部署です。
この科に所属する職種と人員は精神科ソーシャルワーカー(以下、PSW)と臨床心理士(以下、CP)です。

PSWは平成11年以降、国家資格化され、日本では「精神保健福祉士」という名称になっています。
平成23年11月現在、PSWが9名、臨床心理士1名という構成です。

写真は社会復帰科スタッフ全員です。一見まじめ風!? だけど、皆んな、お酒を飲んだり、歌を歌ったり、海や山へ行ったりする事が大好きな面々。要は「遊び人間」の集まりなのかな?!



社会復帰科のスタッフ
(右上から時計回りに、
内田PSW、
成田PSW、
樋口PSW、
柴田PSW〔科長〕、
野口PSW、
馬場CP、
松本PSW、
眞田PSW、
坂巻PSW、
富塚PSW)

やってる事といえば、患者様が退院できるように、あるいは退院後、地域での生活ができるように、病院内外の医療・福祉のチームと連携して、生活の条件を整えつつ、様々な支援活動をしていることです。業務の半分は入院患者様の相談に走り回り、残りの半分は地域に出て地域で暮らす患者さまの支援に、自転車や軽自動車で駆けずり回っています。ですから、地域の皆様にはどこかで出会ったり、お話ししたりすることがあるかもしれません。その節は、よろしく申し上げます。

千葉病院では様々な職種が医療チームの一員として、一人一人の患者様に関わっています。我々の仕事も医療チームの存在なくしてまったく成立しません。

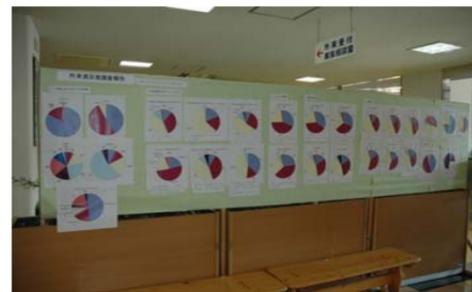
ちなみに、どんな職種があるのか、社会復帰科がどの職種の集まりかを簡単に図示しました

<千葉病院における医療チームと社会復帰科>



千葉病院内に「ふえにつくす」という自助活動の場があります。そこでは年2回ほど(6月〔夏物衣類〕と11月〔冬物衣類〕)の福祉バザーを開催しています。2ヶ月くらい前からバザー用品(衣類中心)を募集しています。今後ともご協力のほど、宜しくお願い申し上げます
(その時期になりますと、飯山満中央町会の掲示板にも詳細が掲示されます)

外来満足度調査を行いました



年に一度、5月ごろに外来待ち時間調査を、7月ごろに外来満足度調査をしています。
多くの方に満足と評価を受けておりますが、まだまだ課題も多くあり、皆様に快適な外来環境を提供できるよう、これからも努力していきたいと思っております。

今年も外来待合ロビーに調査結果を掲示しておりました(11/5まで)。

アンケート結果(抜粋)

- Q: 当院を知るきっかけは何でしたか?
他医療機関からの紹介…49%、家族に勧められて…18%、知人友人に勧められて…6%、看板広告を見て…3%、インターネットを見て…3%、その他…18%
- Q: 診察までの待ち時間はどのように感じられましたか?
とても長い…12%、長い…33%、普通…42%、気にならない…11%、まったく気にならない…1%、未回答…1%
- Q: プライバシーの配慮は感じられましたか?
とても配慮されている…22%、配慮されている…51%、どちらともいえない…21%、配慮されていない…1%、まったく配慮されていない…1%
- Q: 外来スタッフの言葉遣い・対応
とても満足…31%、満足…44%、普通…23%、不満…0%、とても不満…0%、未回答…2%
- Q: 医師の説明・聞く姿勢
とても満足…31%、満足…34%、普通…27%、不満…4%、とても不満…1%、未回答…3%

千葉病院Drによる医療コラム 第8回

うつ病の患者様とご家族

千葉病院医師 浅香 琢也

うつ病の治療では、患者様の暮らされている環境の調整が重要な位置を占めます。この時、ご家族の方は、患者様にどのように接すれば良いのでしょうか。うつ病と言っても、患者様によって症状は様々なので、一概には言えませんが、まず言えるのは、無理のある態度は取らない、ということでしょうか。

うつ病は、原因も未だ不詳のところがありますが、体質が原因の一つとして、大きな要素になっている可能性があります。仕事や経済状況、住環境など、簡単には変えられない要素も大きな影響を与えている場合があります。再発を繰り返すこともあり、患者様ご自身もご家族も、病気と長い付き合いになることは、少なくありません。

なので、無理に気を使ったり、優しくしたり、と頑張りすぎると、長続きせず、遠からず反動で衝突しあったりすることもあるでしょう。無理無く長続きする自然なサポートの方法を考えるべきでしょう。

うつを増悪させるストレスとしては、人に気を遣うということ、責任を負うということ、締め切りやノルマなどのプレッシャーがかかること、が挙げられます。この三つを以前より軽減する配慮が出来たら、それ以上特別なことはいりません。

また、ご家族ですから、当然、心配になったり、不安になったりされると思います。少し良くなれば、嬉しくなるのも人情でしょう。しかし、そういった感情が強く向けられると、うつの方の場合には責任感やプレッシャーを感じて、症状を悪くされることも少なくありません。他の様々な病気と同様、うつも一進一退です。そのことに一喜一憂せず、ほどほどに穏やかな態度を保ち続けることが望ましいでしょう。

総じて言えば、患者様ご自身も、ご家族の皆様も「病気にのめりこみすぎない」加減が大事です。なかなか難しいことかもしれませんが、その加減を、それぞれの患者様にあったやり方でしていく具体的な方法を、患者様、ご家族の皆様、そして主治医とで一緒に考えて参りましょう。